

# 福岡工業大学 学術機関リポジトリ

## Why Politicians Show a Smile? : The Case Study of Yoshihide Suga

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-12-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 木下, 健 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/11478/00001705">http://hdl.handle.net/11478/00001705</a>

# なぜ政治家は幸福の表情を見せるのか —菅義偉官房長官出演時のケーススタディー— 木下 健 (社会環境学部社会環境学科)

## Why Politicians Show a Smile? : The Case Study of Yoshihide Suga

KINOSHITA Ken (Department of Socio-Environmental Studies, Faculty of Socio-Environmental Studies)

### Abstract

This paper reveals how a happy expression is used in political interviews. Yoshihide Suga, the former chief cabinet secretary, is the subject of this analysis, exhibits a happy expression in 12 out of 53 questions (22.6%). Happy expressions are classified in three categories: those accompanied by happiness, those which softened the situation, and those that concealed feelings. Politicians attempted to calm down an atmosphere, at times expressing happiness to avoid confrontation with the caster.

**Keywords** : Political interviews, happy expressions, threat to face

### 1.はじめに

政治家はなぜテレビで笑顔や微笑などの幸福の表情を示すのか。本稿では、政治家がどのような場面で幸福の表情を示すのかを明らかにし、幸福の表情と質問との関係、答えない場合のレトリックとして幸福の表情が用いられているかを検証することを目的としている。

政治家はテレビインタビューや記者会見などの際に、良い印象を作り出すことを心掛けている。それは次の選挙を意識し、政治家および所属する政党に対して、有権者が良い印象を抱くことが再選に直結するためである [Mayhew 1974]。しかし、幸福の表情を見せることが必ずしも良い印象を与えるとは限らない。例えば、ツイッターに加藤勝信官房長官の偽の画像が投稿され、政府が削除を求めたという事例があった [読売新聞 2021年4月12日]。当該画像は、地震直後の記者会見の場において、加藤官房長官が笑みを浮かべているもので、「不謹慎だ」などのコメントとともにツイッターで拡散されていた。この事例では、不適切な場で笑みを見せることが支持の低下に直結するため、偽情報に対応するため政府が対応したものである。微笑や笑顔といった幸福の表情は、選挙のポスターにおいては、好印象を与えるものの [Horiuchi, Komatsu & Nakaya 2012]、適切な場面で用いられていなければ、逆効果になるといえる。

政治の場において、幸福の表情を見せることが好ましいのかどうかは、十分な検討がなされていない。幸福の表情は、恐怖、怒り、悲しみ、驚き、嫌悪の表情と異なり、ポジティブな表情である。Sullivan and Masters [1988]によると、幸福の表情は見た人の喜びと相関関係があるとしており、幸福の表情は票を増やす可能性があるとしている。加えて、

日本の地方選挙を用いた研究として、Asano[2018]は、選挙キャンペーンのポスターで笑顔指標が高い候補は支持が高まるが、投票率が一定より高い場合は笑顔の効果は消えるだけでなく、マイナスの効果になることを示している。幸福の表情は良い影響をもたらすと考えられているが、必ずしも良い影響ばかりとは言い切れない可能性があり、検討が必要な表情と捉えられる。

加えて、幸福の表情は日本独自の文化の可能性があり、西欧の文化と異なる意味合いを持つことが考えられる。どのような場面で表情を示すかを表示規則 (Display Rules) と呼ばれ、表示規則は社会的規範や因習によって変わるとされる [Ekman & Friesen 1969]。日本、中国、韓国のような東アジア諸国では、人々は集団で行動しており、感情の表出を抑制することが大事であると捉えられており、調和を維持するために感情を示さないことが重視される [Heine et al. 1999, Markus & Kitayama 1991]。表情の偽装はマスキングと呼ばれ、顔面管理技術を指している [リッチモンド・マクロスキー 2006]。日本人はマスキングの熟達者と考えられており、日本人の感情表現は肯定的あるいは中立が多いとされる [リッチモンド・マクロスキー 2006]。そのため、笑顔を日本人は多くの場面で多用し、欧米とは異なる笑顔の使い方をしていると考えられる。

これらのことを踏まえ、本稿では、日本の政治家が政治インタビューにおいて、笑顔をどのように用いているのかを明らかにする。

### 2.表情

#### 2.1 感情表出の概念と表示規則

表示規則とは、特定の場面で、自分がある感情を表出するかどうか、もし表出するとしたらどういう風に出るかというものである。例えば、日本人の場合は、悲しみに関して人前で強く表出しないという表示規則を有している。文化的表示規則と表現される場合もあり、社会的規範や因習を指す[Ekman & Friesen 1969]。Ekman and Friesen [1969]は表示規則の機能として、①ある情動を示す表出を弱める、②ある情動を示す表出を過剰にする、③情動を感じていないように見えるようにする、④他の情動を示す表情を作り、実際に感じている情動を隠すという4つを挙げている。

他方で、解読規則(decoding rules)とは、表情をみて、その人がどんな感情常態化を判断するためのものである。例えば、日本人同士の場合であれば、相手が何か軽微な失敗をしたときにちょっと笑っておれば、照れているのだらうと判断できる。手がかりとなるのは、相手の性別、年齢、その場面が公的か私的か、動作など他の表出行動を伴っているかどうかなどである。これらの規則は、その文化の中で育っていくことで、理解されていく。文化が異なると規則にも差が生じる。

情動の表出および解読については、中村[1991]によって整理されている。情動は、刺激状況によって生じ、その情動状態は主観的経験と情動行動という形で表出され、同時に情動の表出は表示規則から影響を受ける[中村 1991]。また、情動の解読には表出行動、情動喚起刺激、表出者の不変的特徴、物理的・社会的な状況、解読者の特徴が必要な要因とされる[中村 1991]。加えて、情動判断に影響を与える要因として、①タスクや物理的背景といった社会的セッティングの永続的特徴、②顔の形態や役割といった表出者の永続的特徴、③物理的事象、第三者の行動、表情表出者の表情や他の行動などの一時的な事象が挙げられている[Ekman, Friesen & Ellsworth 1982]。

## 2.2 文化的差異と日本の特徴

表情の表出や解読について、文化的な差異があることが分かっており、日本における情動の特徴を概観する。Ekman et al. [1987]は、エストニア、ドイツ、ギリシャ、香港、イタリア、日本、スコットランド、スマトラ、トルコ、アメリカの10か国において、7つの感情のうちどの感情が最も強いと判断できるか、2番目に強い感情は何かについて、文化を超えて共通していることを実証している。表情の解読に文化を越える共通性があるとされるものの、アメリカ人と比較して日本人の方が情動を否定的に判断すること、女性は不快の表情に感受性が高いことが指摘されている[中村 1993]。情動コミュニケーションには、文化的・社会的要因が重要な役割を果たしていると指摘されている。

中村[1993]は、日米の大学生に感情を公的な場面、私的な場面で表に出すかどうかを調査している。日米共通の傾向として、公的な場面よりも私的な場面の方が感情を表しやすいとされる。ただし、私的な場面ではアメリカ人の方が一般的に感情を表出しやすいといえる。また、どのような感情

を表出しやすいかに関しては日米であまり差がないとされる[中村 1993]。

李・松本[2011]では、日韓を比較しており、日本人は韓国人よりも悲しみや怒りを社会的場面において、抑制して表現することが示されている。同様に、Shimoda, Argyle and Bitti [1978]もイギリスやイタリアの学生と比較して、日本の学生は情動や態度をあまり明白に表出しないとしている。日本人はアメリカ人やヨーロッパ人と比較して、情動の表出行動と主観的経験の強度が低いとされる[Scherer et al. 1988]。日本、中国、韓国のような東アジア諸国では、人々は集団で相互依存しており、感情の表出を抑制することが大事であると捉えており、調和を維持するために感情を示さないことが重視されている[Heine et al. 1999, Markus & Kitayama 1991]。

日本のような感情があまり表出されない文化では、口元よりも目に焦点を当て、感情の解釈がなされる[Yuki, Maddux & Masuda 2007]。他方で、明確に感情を示す文化では、口元に基づいて感情が解釈される。日本人はネガティブな感情をコントロールするだけでなく、アメリカ人よりも幸福の感情を示すとされている[Matsumoto et al. 1998]。

日本人の生活様式や行動パターンは伝統的な日本文化によるものから変化している。それは、一口に表現すれば、「腹におさめる」、「顔に出さない」など「内に秘める、耐える」から相互理解を求めて「積極的に表す」ことに向かっている[大坊 2007]。日本では、伝統的に能面のように見る者によって多義的に解釈されるような表情が尊ばれてきたこと、すべてを許容するかのような平静さを装うことが美德とされてきたという抑制・間接さを旨とする美意識が根強く働いていると考えられる[大坊 2007]。これらの先行研究より、日本人は歴史的・文化的要因より、情動を抑制する傾向があること、および幸福の感情を示しやすいことがわかる。

## 2.3 幸福の表情

エクマン[1987]は、快感による幸福感、興奮による幸福感、安心による幸福感、自己概念の高揚の幸福感の4通りがあるとしている。自己概念の高揚の例として、称賛や他人からの尊敬、社会的承認が挙げられている。また幸福のタイプだけでなく、強さも様々あることを指摘しており、微笑から口を開けて笑うもの、含み笑い、くすくす笑うといったものが挙げられている。

幸せでないときにも微笑が見られ、他の感情を隠すため、あるいは修飾するために微笑する。微笑は、他人からの攻撃を撃退したり、止めさせるための服従反応であるとしている。微笑を見せれば相手も微笑を返さざるを得ないため、緊張状態を心地よくする場合にも用いられる。

Hayakawa [2003]は、笑いに関して、嬉しい場合、緊張を和らげる場合、何らかの気持ちを隠す場合の3通りに分類している。早川[2000]は、仲間づくり(談話促進)の笑い、バランスをとるため(緊張緩和)の笑い、覆い隠すための笑いの3種類に分類している。仲間づくりの笑いは、話題の共有

期待の笑い、共有表明の笑い、共通認識確認の笑いに下位分類がなされている。バランスをとるための笑いは、恥または照れによる笑い、厚かましきによる笑い、儀礼的笑いに下位分類がなされている。覆い隠すための笑いはごまかしの笑い、反応の仕方が分からないための取りあえずの笑いに下位分類がなされている。早川[2001]は、自然談話資料を用いて、頻度を明らかにしており、仲間づくりの笑いが最も多く、その次にバランスをとるための笑い、覆い隠すための笑いの順に出現することを指摘している。

橋元[1994]は自己の目的か他者の目的かによって笑いの目的が異なるとしており、自己目的の場合には快樂、緊張をほぐす、心理的安全弁としての役割があるとする一方で、他者を目的として笑う場合は、攻撃的機能、社会的機能、防御的機能、談話制御機能があるとされている。苦笑、微笑み、大笑い、にやにや、けらけらといった多様な笑いが存在している。愛想笑い、恥ずかしさによって引き起こされる笑いもある。

Ekman [1991]は、修飾のためのスマイル (qualifier smile)、コンプライアンススマイル (compliance smile)、調整のスマイル (coordination smile)、リスナー反応スマイル (listener response smile) に分類している。

### 3. 方法論

本稿では、2019年5月1日放送のプライムニュース (BSフジ) に出演した菅義偉官房長官 (出演当時、以降は菅とする) を分析対象とする。質問と回答の数は60問であるが、7問については顔が横を向いている等で表情が測定できない回答があった。そのため、53問を分析対象とする。菅を分析対象とした理由として、菅は他の政治家よりも幸福の表情を示すことが多く、一定数の事例を確認することができたためである。プライムニュースは、月曜日から金曜日まで、20時から21時55分まで放送されており、1時間55分の番組となっている。そのため、司会者である反町理 (フジテレビ報道局解説委員長) とキャスターの竹内友佳 (フジテレビアナウンサー) が、重要な争点について、時間をかけて質問することが可能となっている。

第1に、幸福の表情を見せたかどうかは、Face Reader というソフトウェアを用いて測定した。Face Reader は、幸福の表情を0から1までの数値で測定可能であり、0.3以上の数値が得られたものを幸福の表情と判断した。0.3以上とした理由は、幸福の表情が客観的に把握できる程度であり、0.3未満の場合、口や眉の動きなどにより、測定される誤差といえる範囲の表情が含まれる恐れがあるためである。

第2に、Hayakawa [2003]の研究を踏まえて、幸福の表情の分類として、1.自分が嬉しい・楽しいといった感情を伴うもの、2.その場を和ませる、緊張を和らげるために用いられるもの、3.何らかの気持ちを隠す笑み・嘲笑・その他の3つを用いる。

第3に、木下・フェルドマン[2018]と同様に、フェイスへの脅威および脈絡について、大学生にコーディングを依頼

した。フェイスへの脅威は、脅威がないという第1段階から、強い脅威があるという第5段階までの5段階で評価している。脅威がある質問の場合に、何らかの気持ちを隠す笑みを見せる事例があるか、また、その場を和ませる笑みを用いているかどうかを確認する。脈絡は、質問に答えているかどうかの程度であり、質問に答えていれば「1」、質問に全く答えていなければ「6」と評価される。

### 4. 事例分析

53問の回答のうち、0.3以上の幸福の表情の数値が得られた事例は12ケースであった。嬉しい・楽しいと判断した数が4ケース、和ませると判断した数が6ケース、気持ちを隠す・その他と判断した数が2ケースであった。幸福とフェイスへの脅威の相関係数は $r=0.256$ ,  $p<.10$ ,  $n=53$ であり、10%水準であるが、正の相関関係があるといえる。他方で、幸福の表情と脈絡については、相関関係は確認できなかった。

#### 4.1 嬉しいという感情を伴う幸福の表情

嬉しいために幸福の表情を示した事例として、2つ取り上げる。1つ目は、令和時代が始まったことについて、「官房長官として色々のご苦労もされて来たと思いますがこのいまの率直なお気持ちいかがでしょうか」と尋ねられた1問目の例である。

竹内：それでは今日前半のゲストは改めてご紹介しませぬ。安倍政権、官房長官の在任期間歴代最長記録を更新中の菅義偉さんです。菅さん令和時代始まりましたが、官房長官として色々のご苦労もされて来たと思いますがこの今の率直なお気持ちいかがでしょうか。  
菅：ちょうど2年と9ヶ月前ですかね、陛下がお言葉を発されました。まあそうした中で当時やはり陛下ご自身が、日常の活動、天皇陛下として行っていくこと、こうしたことにですね、自ら続けることが困難であるというお気持ちをですね、率直に国民の皆さんに述べられたと。そういう中で政府としてはですね、国民的な議論が高まった。そうしたことを踏まえて、予断を持つことなく検討してですね、衆参正副議長によるですね、議論の取りまとめを受けて天皇の退位等に関する皇室典範特例法という、こうしたものをですね、国会で成立させていただいて、そして昨日はご退位、そして本日はご即位、こうしたことがですね、つつがなく行うことができていると正直ホッとしています。

この質問に対して、天皇陛下がお言葉を発せられたと紹介し、その後、「つつがなく行うことができていると正直ホッとしています」と回答している。「ホッとしています」と述べる際に、幸福の表情を示しており、数値は0.684となっている。

この事例では、官房長官として令和という新しい元号を迎えることができた安堵感から、嬉しい気持ちを表現するために、幸福の表情が示されたものである。フェイスへの脅威は「1」とコーディングされており、脅威のない質問とい

える。気持ちを尋ねられており、この質問に答えることによって、名誉が傷つけられる可能性が低いと、フェイスへの脅威が低いといえる。この事例からはフェイスへの脅威と幸福の表情の間に関係があるとはいえない。

2 つ目の例は、51 問目の視聴者からのメールの質問であり、「令和おじさんと呼ばれている」ことを踏まえて、「世の中の要請にどのよに答えるお考えでしょうか」と尋ねられた場面である。

竹内：視聴者の方からこういったメールがきています。千葉県の方ですが、年号平成は竹下内閣の小淵官房長官が発表された平成おじさんと国民に好意で持って迎えられました。後の小淵総理誕生の引き金の一つになったと思いますが、今令和おじさんと呼ばれている菅官房長官は、同じようなこの世の中の要請にどのように答えるお考えでしょうか。

菅：令和おじさんって言われてどうですかって記者会見で聞かれて、なんとなくピンとこないですねっていう発言させて頂いたんですけど、おじさんですからね。

この質問に対して、菅は記者会見でのエピソードを紹介している。この質問に回答する際、終始笑顔で答えているが、「おじさんですからね」という際に最も高い数値となっており、0.880 となっている。その回答に対して、反町は「そこはおじさんかおじさんじゃないかで頑張るところでは僕はないと思いますよ」と笑いながら、話している。「おじさんですからね」という菅の発言は、ジョークとして機能しており、司会者との和やかな関係を形成することに役立っている。そのため、令和おじさんと言われることについて、嬉しい気持ちを含んでおり、「嬉しい・楽しいといった感情を伴うもの」に分類したが、「その場を和ませる、緊張を和らげる」という分類と重複しているといえる。

この質問のフェイスへの脅威は「2」とコーディングされており、潜在的な脅威が存在する低いレベルであるといえる。この事例においても、フェイスへの脅威と幸福の表情の関係があるとはいえない。

#### 4.2 和ませるための幸福の表情

幸福の表情が示された事例のうち、最も頻繁に見られた分類が「その場を和ませる、緊張を和らげるために用いられるもの」である。1 つ目の例は、徴用工の原告団が差し押さえをして、現金化をすることについて問われている 5 問目の場面である。

反町：あの、実際にこれが現金化されれば、実害になるということだと思うんですけども、その時点が次の節目になるという理解でよろしいですか。本当に現金化されちゃったという。

菅：政府はですね、関係企業にそれぞれ綿密に連絡を取りながら、そうした企業の利益を守るべくですね、しっかりとした対応をしているということですよ。それで今のタイミングの話ありましたがけれども、まあ

どのタイミングで何をどうするか、こういうことではすね、発言することは、ここは手の内を明かすような形になりますので控えたいと思います。ただそこはしっかりと企業と連携をしてやっていると、企業の利権を守り抜くと、まあそういう思いです。

菅は「ここは手の内を明かすような形になりますので」と述べるときに微笑を見せている。これは「言えませんが」ということを相手に理解してもらうために表情を示したものであり、インタビュアーとの対立を避け、雰囲気や和らげる意味合いで用いられている。政府が韓国側に対して何をするか計画を持っている可能性があり、その計画を隠すということも考えられる。しかし、別の感情を隠している訳ではないので、インタビュアーに向けられた微笑であり、対立を避ける目的であると考えられる。幸福の表情の数値は、0.569 となっている。

フェイスへの脅威は「4」とコーディングされており、やや強い脅威のレベルとなっている。この例では、質問に答えられないという政治的な処理を行っており、その際に微笑し、司会者に敵意がないことを示している。脈絡は「5」とコーディングされており、質問には答えていない。

2 つ目の例は、皇室典範改正に関する付帯決議について尋ねられた 16 問目である。

反町：なるほど、そのプロセスの中で一つ出てきたのがですね、この考え方なんです。皇室典範特例法における付帯決議です。これは要するに皇室の、我々の言葉で言うと人手不足です、人手が足りなくなってしまう、様々なその皇室関係の行事にご出席いただく皇族の方々の方々の人数が足りなくなってしまうんじゃないか。そうした中でこの上にあるような、安定的な皇位継承を確保せざるためにはしょうがない、女性宮家の創設等について本法施行後速やかに検討を行うんだということになっています。じゃあこのものについて、実は安定的な皇位継承を確保するための話と女性宮家の創設はちょっと深みと言おうかインパクトが違いますよね。その場合でいうと本法施行後、速やかに検討を行うというのは官房長官のスケジュール感でいうと、まず最初に検討すべきは皇位継承についてのお話なのか女性宮家の創設に関しての、より具体的な人手不足に対応する施策から検討すべきなのか。そしてそれはいつ頃から検討すべきなのか、どのようにお考えですか。

菅：まずこの皇室典範特例の付帯決議ですけども、これについてはですね、やはり趣旨尊重してしっかりと対応するというのが政府の当然の姿勢であります。その中で安定的な皇位継承、これを維持することはですね国家の基本問題、これに関わる極めて重要な問題だと受け止めていますし、そして男系継承がですね、例外なく維持されてきていますから、その重みなどを踏まえてですね、慎重にそして丁寧に検討すべきことであ

ると、こうしたことを申し上げています。それと女性宮家でありますけども女性皇族が婚姻等によってですね、皇族数の減少、これについては皇族方のご年齢からしてもですね、先延ばしすることはできない、重要な課題であるとのことにも認識をしております。こうしたことの対応についてはですね、様々な考えとか意見がありますから、国民のコンセンサスを得ることはやはり十分な検討とかですね、分析、慎重な議論こうしたことが極めて大事だというふうに思っています。ただいずれにしろ、この天皇陛下のご退位、ご即位一連の式典がですね、まずつつがなく国民から祝福される中で行うことができるように、私もまだ天皇陛下のご即位に伴う様々な式典ありますので、そうしたことにまず全力を尽くしてそこをしっかりとやるのが大事だと思っています。

複数の質問を矢継ぎ早に尋ねられ、難しい質問に直面している。この質問に答える際、菅は準備してきた原稿ノートを確認しながら、答えている。政府がこれまでに述べてきたことと矛盾がないように回答し、一通り持ち込んだ原稿ノートの話を終えた後に、「様々な考えとか意見がありますから」のところで、微笑を示した。幸福の表情の数値は0.437とそれほど高くはないが、注意していれば、微笑んでいることが判断できる程度である。ここで微笑んでいる理由は、原稿を読んでいた後の緊張を和らげる目的であると考えられる。インタビュアーに対してというよりも、自分の緊張をほぐすために微笑を示したと考えられる。

フェイスへの脅威はやや脅威がある「4」とコーディングされており、脈絡は「4」とコーディングされており、質問には答えていない。幸福の表情を示した「様々な考えとか意見がありますから」という発言の場面は、笑みを見せる場面として適切とは言い難い。フェイスへの脅威があり、質問に答えていない場面において、微笑する事例は日本文化によるものであり、場を和ませるためのものといえる。

#### 4.3 気持ちを隠す笑み・嘲笑・その他の事例

気持ちを隠す笑み・嘲笑・その他に分類された事例は、「嬉しい」、「和ませる」に分類ができず、ごまかしの笑いや反応の仕方が分からないための取りあえぬの笑いと考えられている。この例は、G20の日露首脳会談に合わせて、2019年7月の参議院選挙と同時に、解散総選挙が行われるのではないかとこのジャーナリストの見方を紹介し、日露の状況はどういう風に見たら良いかが尋ねられる35問目である。

反町：一方外交でもう一つ伺いたいのが日露です。6月のG20を一つの節目にするというような見立てが流れている。我々もそういう風に6月のG20の日露首脳会談でどこまで形として出てくるのだろうか、はっきり言ってしまうとその内容次第によってはそれをテーマでダブルを打つんじゃないかという、筆が滑る人もいるわけですよ。我々の想像も含めてですよ。そういう

中で日露の状況、我々どういう風に見たらよろしいんですか。

菅：まああのこれですね、シンガポールで、日露、総理とプーチン大統領がですね。会談をしてそれぞれの大統領、総理大臣との間に平和条約締結までという趣旨のお話ありましたですね。解決しろという、そこから皆さんもう勝手に今度のG20の時だと決めちゃっているんですけども、ただ今これまさに70年間そのままですから、その中で領土交渉とは極めて困難なものなんです。しかし両者の合意をしてそれぞれ外務大臣とそれとそれぞれの事務の責任者特別代表決めて交渉していますから、ここはずっと続けているんです。まあそういう中で総理の間に大統領の間に解決しようとそういう方向で今事務方、事務の責任者同士で会合が続いている、そういうことだと思っています。

菅は「そこから皆さんもう勝手に今度のG20の時だと決めちゃっているんですけども」と述べる際に、微笑を示している。幸福の表情の数値は、0.320となっている。解散があると首相は言っていないにも関わらず、ジャーナリストの方々は、今度のG20のときだと決めてしまっていると笑いながら述べている。この表情は、「嬉しい」、「和ませる」には分類することができず、嘲笑に近い微笑であると考えられる。ジャーナリストを完全に嘲笑っている訳ではないが、解散は言っていないことを確認する意味も含めて、微笑している。

この例では、フェイスへの脅威は「3」とコーディングされており、少し脅威がある質問となっている。また脈絡についても「3」とコーディングされており、やや答えていると評価されている。この例は、脅威があるから、笑って誤魔化している訳ではないため、表情との関係は明らかではない。

もう一つの例は、梶山清六の総裁選についての意見を尋ねる54問目である。

反町：あの菅さんは梶山静六さんが総裁選の時に、派閥を抜けて変えられましたよね。あの時梶山さんは金融危機の状況の中でメガバンクの統合やらなんやらも全部含めて非常にハードランニングと言われるような政策をぶち上げられて、なおかつその経世会からは小淵さんが出て、あの時はもう一人は小泉さんが出たのか、ですよ、そういう中で、その勝てるかどうかといたらやっぱり厳しい中で政策の旗を掲げる、きちっとやるということを言って出て言った。あの梶山さんの当時の総裁選の戦いぶりと言うのは菅さんは今どう言うふうにお感じになっているんですか。

菅：あの時私、国会まだ一期生で、その時に梶山さんの総裁選挙、まさに権力闘争でした。あそこをさせて頂いて、自民党、国会議員とはこんな感じなんだなと非常に勉強になりました。そういう意味で梶山さんと言う人は非常に先見性の高いというんですかね。私一番びっくりしたのはですね、銀行なんか当時

日本に23行あったんですが、銀行なんかそのうち1つか2つになるんだって言うていたんですよ。まさか住友と三井が一緒になるとかですね、色んな銀行が統合するとは全く思わない時から言っていましたよね。そういう意味で色んなことを教えられた政治家の方ですよ。

菅は「銀行なんかそのうち1つか2つになるんだって言うていたんですよ」と言う際に、微笑している。幸福の表情の数値は、0.569となっている。この例は、過去の自民党の政治家である梶山を回顧したことに伴う、微笑であり、思い出し笑いと考えられる。「嬉しい」・「和ませる」のどちらも適当ではないと判断したため、その他の事例といえる。フェイスへの脅威は「2」とコーディングされており、潜在的な脅威のレベルとなっている。脈絡は「3」とコーディングされており、やや答えているといえる。この例においても、回答と表情の直接的な関係は確認することが難しいといえる。

## 5. おわりに

本稿では、政治インタビューにおける幸福の表情がどのような場面で使用されているかを明らかにしてきた。分析対象とした菅は、53問のうち12問(22.6%)で幸福の表情を示しており、頻繁に幸福の表情を示す政治家といえる。嬉しいといった感情を伴うもの、その場を和ませるもの、何らかの気持ちを隠すものの3つに分類したところ、その場を和ませるために用いられていたケースが6ケースあり、最も多かった。政治家は、司会者との対立を避けるために幸福の表情を示している事例が見受けられ、穏やかな雰囲気形成しようとしていた。加えて、幸福の表情を示すことが適切ではないと考えられる場面においても、幸福の表情が示されており、質問に答えない場面で用いる幸福の表情は日本文化によるものと考えられる。そして、幸福の表情は必ずしも質問に答えない場合に示す訳ではないことが明らかとなった。むしろ、幸福の表情の使用は、質問に答えるかどうかと関係がない場合の方が多いと考えられる。

課題として、幸福の表情を分類することが極めて難しいことが明らかとなった。今回の分析ではHayakawa [2003]に基づいて分類を行ったが、嬉しい、和ませる、気持ちを隠すという質的な3分類が行えるかどうかは難しい事例がいくつかあった。また、他国の政治家が幸福の表情をどのような場面で示しているかを確認しなければ、日本文化によるものかどうかは明らかにはならない。そのため、欧米圏の政治インタビューとの比較を通して分析する必要があり、さらなる研究が必要である。

政治インタビューは、政治家がメディアを通して、政治家及び政党の良い印象を形成するツールとして用いられている。政治家は司会者からの質問に対して答えることを通して、説明責任を果たし、同時に支持の拡大を図っている。我々、有権者は選挙を通して、議員を選出し、その過程にお

いて議員の行動を監視しなければならない。選挙を終えれば監視しなくても良いという訳ではなく、絶えず次の選挙を意識して、議員が適切な行動や振る舞いを行っているかを監視していかなければならない。政治インタビューは報道を前提とした表舞台で行われているため政治家の幸福の表情の使用は、司会者や視聴者に向けられていることを認識し、政治家がなぜ幸福の表情を用いているかを確認しながら、監視していくことが求められる。

## 謝辞

本研究は福岡工業大学総合研究機構の2020年度研究スタートアップ支援制度により実施したものである。

<sup>1</sup> 話者は自分が相手領域に入り込み、相手のプライバシーに抵触する意見を言うこと、相手の判断を促すこと、相手の行動を促すこと等による緊張、厚かましさを認識を和らげる、緩和するために笑うことを指す。

## 文 献

- エクマン, ポール・フリーゼン, ウォレス[1987]『表情分析入門』誠信書房。  
木下健・フェルドマン, オフェル[2018]『政治家はなぜ質問に答えないか—インタビューの心理分析』ミネルヴァ書房。  
大坊都夫 [2007]「社会的脈絡における顔コミュニケーションへの文化的視点」『対人社会心理学研究』7, pp.1-10。  
中村真 [1991]「情動コミュニケーションにおける表示・解読規則」『大阪大学人間科学部 紀要』17, pp.115-146。  
中村真 [1993]「情動判断の日米比較」『大阪大学人間科学部紀要』19, 41-57。  
橋元良明 [1994]「笑いのコミュニケーション」『言語』23 (12), 42-48  
早川治子 [2000]「相互行為としての「笑い」」『文学部紀要』14 (1), 23-43。  
早川治子 [2001]「「笑い」の分類に基づく数量的分析」『文学部紀要』14 (2), 1-24。  
読売新聞 [2021年4月12日]「偽会見画像 削除求める 官房長官 表情 変化 政府、ツイッター社に」  
リッチモンド, V.P.・マクロスキー, J.C. (山下耕二編訳) [2006]『非言語行動の心理学—対人関係とコミュニケーション理解のために』北大路書房。  
李礼真・松本芳之 [2011]「日本人と韓国人における表示規則」『心理学研究』82(5), 415-423。  
Asano, M. [2018] Smiles, turnout, candidates, and the winning of district seats. *Politics and the Life Sciences*, 37 (1), 16-31。  
Ekman, P. [1991] *Telling lies: Clues to deceit in the marketplace, politics, and marriage*. W. W. Norton & Company。  
Ekman, P. & Friesen, W.V. [1969] The repertoire of nonverbal behavior: categories, origins, usage, and coding. *Semiotica*, 1, 49-98。  
Ekman, P., & Friesen, W.V., & Ellsworth, P. [1982] What are the relative contributions of facial behavior and contextual information to the judgement of emotion? In P. Ekman (Ed.), *Emotion in the human face*. 2nd ed. (pp.111-127) Cambridge University Press。  
Ekman, P., Friesen, W., O' Sullivan, M., Chan, A., Diacoyanni-Tarlatzis, Irene, Heider, K. Krause, R., LeCompte, W.A., Pitcairn, T., Ricci-Bitti, P.E., Scherer, K., Tomita, M. [1987]. Universals and cultural differences in the judgments of facial expressions of emotion. *Journal of Personality and Social Psychology*, 53(4), 712-717。  
Hayakawa, H. [2003] The meaningless laugh: Laughter in Japanese communication. (Doctoral thesis, University of Sydney, Australia). <https://ses.library.usyd.edu.au/bitstream/handle/2123/656/adt-NU20050104.14424602whole.pdf;jsessionid=2D8092ECF9AA18E397D2DCFEF31AB661?sequence=2> (2021年6月1日確認)  
Heine, S. J., Lehman, D. R., Markus, H. R., & Kitayama, S. [1999]. Is there a

- universal need for positive self-regard? *Psychological Review*, 106, 766-794.
- Horiuchi, Y., Komatsu, T., & Nakaya, F. [2012] Should candidates smile to win elections? An application of automated face recognition technology. *Political Psychology*, 33 (6), 925-933.
- Matsumoto, D., Takeuchi, S., Andayani, S., Kouznetsova, N., & Krupp, D. [1998]. The contribution of individualism vs. collectivism to cross-national differences in display rules. *Asian Journal of Social Psychology*, 1, 147-165.
- Markus, H. R., & Kitayama, S. [1991] Culture and the self: Implications for cognition, emotion, and motivation. *Psychological Review*, 98, 224-253.
- Mayhew, David [1974] *Congress: The Electoral Connection*, Yale University Press.
- Shimoda, K., Argyle, M. & Ricci-Bitti, P. [1978] The intercultural recognition of emotional expressions by three national racial groups: English, Italian, and Japanese. *European Journal of Social Psychology*, 8, 169-179.
- Scherer, K. R., Matsumoto, D., Wallbott, H. G., & Kudoh, T. [1988]. Emotional experience in cultural context: A comparison between Europe, Japan, and the United States. In K. R. Scherer (Ed.), *Facets of emotion: Recent research* (pp. 5-30). Lawrence Erlbaum Associates, Inc.
- Sullivan, D. G., & Masters, R. D. [1988] Happy warriors: Leaders' facial displays, viewers' emotions, and political support. *American Journal of Political Science*, 32 (2), 345-368.
- Yuki, M., Maddux, W., & Masuda, T. [2007]. Are the windows to the soul the same in the East and West? Cultural differences in using the eyes and mouth as cues to recognize emotions in Japan and the United States. *Journal of Experimental Social Psychology*, 43 (2), 303-3